

ごあいさつ



取締役頭取

古出 哲彦

皆さまには、日頃より大光銀行グループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

皆さまの大光銀行グループに対するご理解をより深めていただけますよう、本年も「大光銀行ディスクロージャー誌」を作成いたしましたので、ご案内申し上げます。本誌では、経営方針や最近の業績、将来に向けたビジョン、各種業務のご案内や取組み施策など幅広い項目について、できるだけ具体的にわかりやすくご紹介させていただいておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

さて、地域金融機関を取り巻く環境をみますと、人口減少や少子高齢化の進行など社会構造上の課題への対処が必要とされるなか、地域社会・経済の活性化に向け、地域金融機関が果たす役割への期待が一段と増しております。また、フィンテックに代表される金融とITの融合は加速度的に進展しており、金融サービスのIT化への対応は、金融機関共通の重要な課題となっております。加えて、新潟県内においては地方銀行2行の経営統合が予定されており、新潟県内の金融機関の競合環境は今後、大きく変化することが予想されております。

このような大きな変化が見込まれるなか当行は、本年4月より3ヶ年の第11次中期経営計画「Change II ~もっと、変わる。~」を策定いたしました。地域から愛され、真に必要とされる銀行を目指す長期ビジョンのもと、本計画は、その実現に向けたセカンドステージと位置付けており、前計画で挑んだChangeを継続し、もっと「強い大光」を築き上げてまいります。そのために、本計画の最重要戦略である「お客さまニーズを起点とした、『お客さま本位』のソリューション営業の実践」により、中小企業や個人のお客さまに親身になって寄り添い、コンサルティング機能をこれまで以上に発揮していくとともに、お客さまや地域に密着した活動に継続して取り組み、地域に役立つ銀行として存在価値を高めることで、当行の将来的な顧客基盤を拡充してまいります。

皆さまにおかれましては、引き続き倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成30年7月